

令和6年度 石巻市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

令和7年5月
石巻市（宮城県）

I. 中心市街地全体に係る評価

〇計画期間：令和2年4月～令和7年3月（5年0月）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市では、令和2年3月に内閣府の認定を受けた「石巻市中心市街地活性化基本計画」に基づき、目指す中心市街地の都市像「石巻らしさを活かし、市民の誇りと石巻に暮らすことの豊かさを醸成できるまち」の実現に向け、定住人口と交流人口の増加及び市民活動参加者数の増加を目標に掲げ、これまでソフト事業、ハード事業の両面から中心市街地の活性化に取り組んできた。

計画期間中には、東日本大震災からの復興事業として進めていた「かわまち交流拠点整備事業」が完了し、賑わい創出の場として活用する機会が増加したことで、「川沿いエリア」における歩行者・自転車通行量や施設の利用者が増えるといった効果が表れている。

加えて、令和3年度より実施している「空き地・空き店舗活用助成金事業」は、中心市街地内に店舗を出店する機会の一つとなり、市民に求められている目的地を生み出すことにつながった。

一方、定住人口については、少子高齢化による自然減の進行や、民間による住宅供給事業の見直しに伴う住宅供給戸数の減少により、目標を下回る結果となり、減少幅が拡大している状況となっている。

また、定住人口の減少と併せて低未利用な土地や建物が目立っていることや、「川沿いエリア」における賑わいが中心市街地全体へ波及していないことから、これらの土地、建物を活用し、いかにして街なかの回遊性を高めていくかが今後の課題である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

（基準日：毎年度3月31日）

（中心市街地 区域）	令和元年度 （計画前年度）	令和2年度 （1年目）	令和3年度 （2年目）	令和4年度 （3年目）	令和5年度 （4年目）	令和6年度 （最終年度）
人口	2,878	2,901	2,859	2,791	2,723	2,635
人口増減数	8	23	△37	△65	△68	△89
自然増減数	△42	△31	△28	△57	△43	△53
社会増減数	50	54	△9	△8	△25	△36
転入者数	69	80	52	37	51	43

(2) 地価

地価公示（国土交通省）（基準日：令和7年1月1日）（単位：円/㎡）

	令和元年度 （計画前年度）	令和2年度 （1年目）	令和3年度 （2年目）	令和4年度 （3年目）	令和5年度 （4年目）	令和6年度 （5年目）
鑄銭場 57番7	76,000	75,800	75,500	75,200	75,200	75,000

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

①概ね予定通り進捗・完了した

②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

①活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

第3期計画において計画していた事業のうち、一部民間事業においては、事業の見直しが必要となったことで未完了となったが、かわまち交流拠点整備事業など復興事業として市が主体となって整備してきたハード事業は概ね完了しイベント等が開催されるなど、多くの市民や観光客利用されていることから、計画全体としては概ね予定通り進捗・完了したと考える。

指標の一つである「中心市街地における社会増減数」は、全国的な人口減少・少子高齢化が顕著に進む中、中心市街地の人口についても毎年減少が続いており、居住空間としての需要が減少している状況となっているが、令和3年に竣工した優良建築物等整備事業において分譲住宅が整備されたことにより、居住者が生まれたことや、「定住促進住宅取得等補助金事業」等の事業展開により、社会増減の抑制に寄与されたと考えられる。

「自転車歩行者通行量」は毎年減少が続いており、休日の観光客やイベントでの利用時には街なかを訪れる人が増加している一方で、市民が日常使いで利用し、街なかを歩いて回ることが少なくなっていると考えられる。

「2施設の利用者数」、「市民交流施設4施設の利用者数」については、「かわまち交流拠点施設整備事業」が完了したことにより、川沿いエリアにおいて多くのイベントが開催されたことで、イベント来場者の利用が増加したことに伴い、「いしのまき元気いちば」及び「石巻市かわまち交流センター」において、施設の利用者数が大幅に増加したことで目標値を上回る結果となった。

また、市民意識調査結果からも、中心市街地は買い物に行く場所などの日常使いとしての魅力が低下していることが課題となっているものの、イベントや観光で訪れる魅力が増している傾向となった。

こうした状況から、定住人口が減少し、遊休不動産の増加がみられる中、目標値に届いていない指標もあるが、拠点施設の利用者数の増加やイベント実施等で積極的に活用している状況もあり、中心市街地の賑わい創出に一定の効果が表れていることから、若干活性化したとしたものである。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

①活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

石巻市の中心市街地は、震災復興事業によりハード面はほぼ完了し、今後はソフト面を中心とした賑わいの創出で活性化を図る必要がある。

当中心市街地活性化協議会では、中心市街地における活発なイベントの開催を支援し交流人口の拡大を図るため、令和3年度より「賑わい創出助成金事業」を実施し、令和6年度は、中心市街地におけるイベントを9件助成支援することができた。

第3期計画期間中、石ノ森萬画館やいしのまき元気いちばなどの交流拠点でのイベント等開催により、賑わいの創出に一定の効果があつた。中心市街地の地域内居住人口は減少気味となっており、まちなかイベントを通年で行うなど、交流人口の拡大に向けた取組が肝要になる。第4期計画期間に於いて、基本方針に掲げている「街なかの魅力を活かしたさまざまなチャレンジが生まれ、安心して楽しく回遊できるまち」を目指すため、石巻南浜津波復興記念公園とかわまちエリアとの連携を強化し、街なかへの誘導を図る。また、まちなかイベントを通じて駅前からかわまちエリアへの回遊性を促し、まちなかの賑わい創出を図り、交流人口の拡大に向けて、官民がより密接な連携を図りながら総合的かつ一体的に推進していただきたい。

5. 市民意識の変化

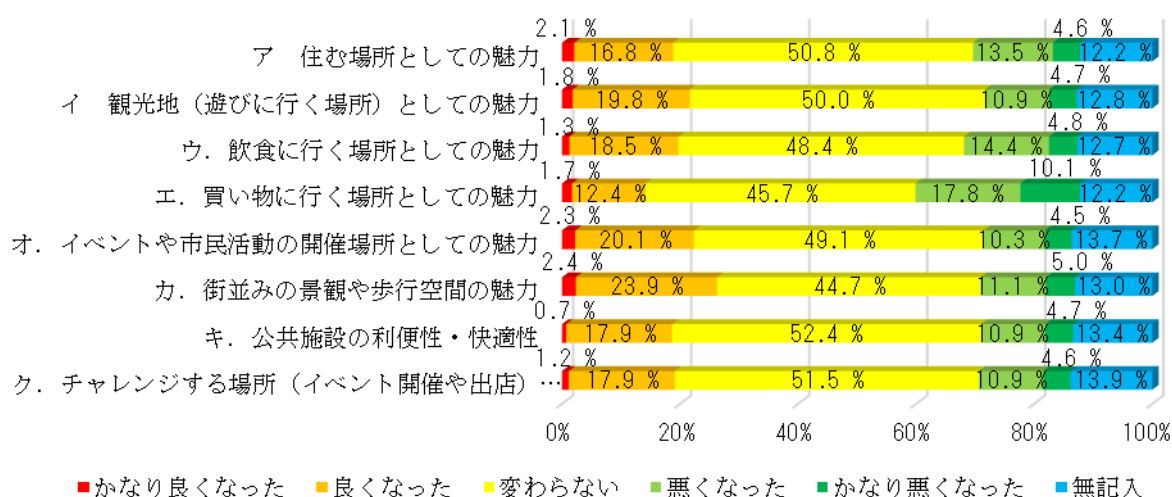
【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【令和6年度石巻市市民意識調査】

調査期間 令和6年7月26日～8月16日
調査方法 市内に居住する無作為抽出した満18歳以上の男女3,200人
回収数 1,104件

中心市街地の状況について、「5年前(令和元年)と比較してどのように感じていますか。」という問いを8項目にわたり調査したところ、「買い物に行く場所としての魅力」については、悪くなった、かなり悪くなったと回答している割合が 27.9%にのぼっていることから、日常使いでの利用が少なくなっていると考えられる一方で、「観光地としての魅力」、「イベントや市民活動の開催場所」、「街並みの景観や歩行空間の魅力」において、かなり良くなった、良くなったと回答している割合が 20%を超えていることから、ハード面の整備が概ね完了したことにより、整備された施設や既存の施設において、イベント等が行われる場所としての魅力が高まっていると考えられることから、市民意識の変化についても若干活性化したと考えられる。



6. 今後の取組

本市では、平成22年の第1期石巻市中心市街地活性化基本計画から3期にわたり、中心市街地を本市のコンパクトシティの考え方に基づき、安全安心なまちづくりを進めてきた。

第1期計画策定後に東日本大震災が発生したことで、計画の主たる事業となった復興のためのハード事業は、第3期計画において概ね完了し、震災後に完成した「いしのまき元気いちば」、「かわまち交流拠点」や「堤防一体空間」と既存の「石ノ森萬画館」を中心とする「川沿いエリア」への来訪者数は増加傾向となり、中心市街地における賑わいの拠点形成に寄与している。

一方、「駅前エリア」、「立町・中央エリア」の歩行者通行量は減少傾向にあり、川沿いエリアの賑わいが中心市街地全体へ波及しておらず、また、市民意識調査においては、中心市街地を訪れる頻度について、「月に1回程度」以上であるとの回答が5割程度となっており、令和元年度に実施した同調査ではその割合が6割程度であったことから、市民の街なかへの来訪頻度が低下しており、日常づかいにつながっていないことから、活性化に向けた一層の取組が必要である。

今後は、この結果を踏まえ、令和7年3月に策定した第4期石巻市中心市街地活性化基本計画において、目指す中心市街地の都市像である「街なかの魅力を活かしさまざまなチャレンジが生まれ、安心して楽しく回遊できるまち」を実現させるため、中心市街地がこれまでに培ってきた歴史・文化・川湊といった中心市街地にしかない魅力と、整備してきたハードを活かしたソフト事業を展開することにより、中心市街地全体の賑わい創出や魅力ある街づくりを進め、指標の達成に向けて取組を推進していく。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
定住人口の増加	中心市街地における社会増減数(人)	-58 (H29～H30 平均)	+19 (R2～R6 平均)	+4	-5	R2～R6 平均	B2
	【参考指標】 中心市街地における定住人口(人)	2,872 (H30)	3,006 (R6)	2,980	2,635	R6	<u>c</u>
交流人口の増加	2施設の利用者数 (人／年)	1,369,912 (H30)	1,469,603 (R6)	1,449,665	1,616,126	R6	A
	歩行者・自転車通行量(人)	17,790 (H30)	19,748 (R6)	19,357	10,883	R6	C
	【参考指標】 中心市街地回遊率(%)	36.1 (H30)	45.0 (R6)	43.2	41.4	R6	B2
市民活動参加者数の増加	市民交流施設4施設の利用者数(人)	153,429 (H30)	182,315 (R6)	176,538	245,911	R6	A

<達成状況の分類>

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

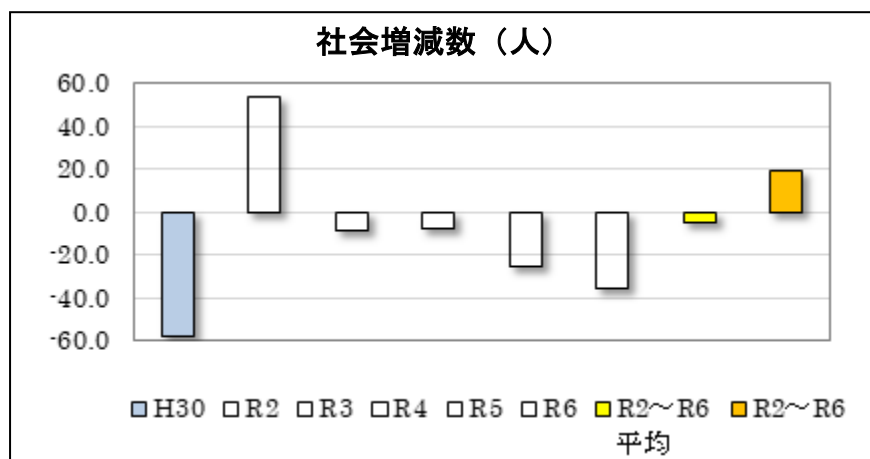
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、英字を小文字にして英数字に下線を引いて下さい。（例：a、b1、b2、c）

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「中心市街地における社会増減数」(目標の達成状況【B2】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P66～P67 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H30	△58 (基準年値)
R2	+54
R3	△9
R4	△8
R5	△25
R6	△36
R2～R6 平均	△5
R2～R6	+19 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：毎年度3月末日

※調査主体：石巻市

※調査対象：中心市街地に居住する人数

〈分析内容〉

「中心市街地における社会増減数」の目標については、住居の整備や居住空間の整備といった事業の推進によって、中心市街地への転入促進を図ることが重要であったが、市全体の人口減少が進んでいる中において転出者が増加する一方で、転入者の増加が図られなかったことや一部民間の住宅供給事業が中断したこともあり、計画期間中の目標値に至らない結果となった。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 優良建築物等整備事業（中央二丁目3番地区（A1地区））（民間事業者）

事業実施期間	平成29年度～令和3年度【済】
事業概要	まちなか居住の促進や被災者への早期住宅供給とともに、被災店舗の再生を図ることを目的に、店舗及び分譲住宅を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	復興交付金（優良建築物等整備事業・基幹事業） （国土交通省）（令和2年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕12戸 〔最新値〕7戸（令和3年度）（目標未達成） 令和3年6月竣工
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画通り令和3年度で終了しており、竣工後順次入居となっていることから、事業完了時には目標値を達成できなかったと考えられる。

計画終了後の状況及び事業効果	現在整備した住宅の空き物件はほぼない状態であり、居住者の維持につながっている。
事業の今後について	当該事業は令和3年度で終了
②. 地域優良賃貸住宅（高齢者型）供給促進事業（民間事業者・石巻市）	
事業実施期間	平成23年度～令和12年度【実施中】
事業概要	民間活力を活用して建設された高齢者向け優良賃貸住宅の入居者の家賃負担軽減を図るため、家賃の減額に要する費用を補助し、高齢者に低廉で快適な住み良い住宅の提供を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（公的賃貸住宅家賃低廉化事業）） （国土交通省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕－ 民間賃貸住宅を活用し、高齢者に配慮した良質な賃貸住宅を低廉な家賃で提供することにより、高齢者の居住安定が図られた。 令和7年度末時点での入居戸数は34戸中23戸となっている。
達成した（出来なかった）理由	高齢者向け賃貸住宅であることから、環境の変化等による入退去の影響が大きい。
計画終了後の状況及び事業効果	助成事業は今後も継続していく予定であることから、高齢者の定住促進に繋がっていくと考えられる。
事業の今後について	平成23年度の供用開始から20年間の家賃補助となる為、今後も事業を継続していく。
③. 住吉公園整備事業（石巻市）	
事業実施期間	平成30年度～令和4年度【済】
事業概要	河川堤防整備事業と合わせた再整備により、市民の憩いの場としての機能を回復するとともに、石巻市の地名の由来といわれる「巻石」を有する雄島を再生し、石巻の歴史や文化、川湊の面影を後世に伝える場としての再生を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕－ 整備が完了し、市民の憩いの場としてにぎわいが戻りつつある。
達成した（出来なかった）理由	令和4年度整備完了
計画終了後の状況及び事業効果	中瀬公園から続く川沿いエリアと一体となり、石巻の歴史や文化を伝える場所として利用されている。
事業の今後について	令和4年度整備完了

④. 定住促進住宅取得等補助金（石巻市）

事業実施期間	令和３年度～令和１１年度【実施中】 〔認定基本計画：令和３年度～令和６年度〕
事業概要	中心市街地に転入し、住宅を建築または購入した方に対し、それに要した費用を助成することで、人口減少を抑制し、定住促進と地域活性化を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和３年度～令和６年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕－ 中心市街地における目標値設定はなし。 〔最新値〕 令和６年度の交付実績は市内全域で３１件となった。 補助対象者を子育て世帯に絞ったことにより、前年度よりも若い世代の移住定住が促進され、事業効果を高めることが出来た。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地における目標設定をしていないことから、達成理由等はなし。
計画終了後の状況及び事業効果	移住定住の促進されることで、定住人口の確保につながった。
事業の今後について	移住定住の促進に効果がある事業のため、今後も事業を継続していく。

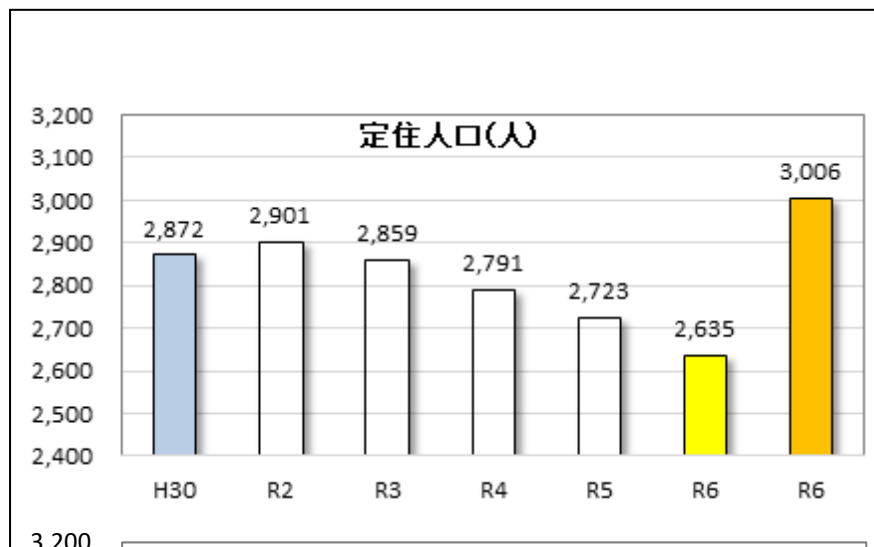
●今後の対策

「中心市街地における社会増減数」の目標達成における事業は概ね実施が完了となったものの、住宅供給における民間事業の一部で実施困難となり、住宅整備が行われなかったことが影響し目標達成とはならなかったが、基準年値より大きく上回ることはできた。中心市街地から新市街地として造成している他地区へ生活の拠点が移動したことや少子高齢化が加速する中で、社会増減数の増加は一朝一夕には進まないことから、次期計画においては目標として設定せず、数値を注視していく。

(2)「【参考指標】中心市街地における定住人口(人)」(目標の達成状況【c】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P68～P69 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H30	2,872 (基準年値)
R2	2,901
R3	2,859
R4	2,791
R5	2,723
R6	2,635
R6	3,006 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：毎年度3月末日

※調査主体：石巻市

※調査対象：中心市街地に居住する人数

〈分析内容〉

「中心市街地における定住人口」については全国的な人口減少・少子高齢化が進む中、本市においても例外ではなく市内全体の人口も減少している。一部の民間による住宅供給事業が中断したことにより、住居の整備が完了していないことも原因の一つとはなるが、社会減とともに自然減も進行していることから、定住人口の減少が進んだものと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 優良建築物等整備事業（立町二丁目4番地区）（民間事業者）

事業実施期間	平成29年度～令和4年度【済】 〔認定基本計画：平成28年度～令和3年度〕
事業概要	まちなか居住の促進や被災者への早期住宅供給とともに、被災店舗の再生を図ることを目的に、店舗及び分譲住宅を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	復興交付金（優良建築物等整備事業・基幹事業） （国土交通省）（令和2年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕4戸（賃貸住宅整備予定） 〔最新値〕0戸（目標未達成） 復興交付金を活用し基本設計、実施設計を完了。
達成した（出来なかった）理由	事業計画に見直しを要しており、計画期間中の完成が困難となった。
計画終了後の状況及び事業効果	未完成の為効果なし

事業の今後について	当該事業は令和4年度で終了
-----------	---------------

②. 優良建築物等整備事業（立町一丁目3番地区（B地区））（民間事業者）

事業実施期間	平成29年度～令和4年度【済】 [認定基本計画：平成29年度～令和3年度]
事業概要	高齢者の居住環境整備とともに、被災店舗の再生を図ることを目的に、店舗及びサービス付高齢者向け住宅等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	復興交付金（優良建築物等整備事業・基幹事業） （国土交通省）（令和2年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	[事業目標値] 70戸（サービス付き高齢者住宅整備予定） [最新値] 0戸（目標未達成） 復興交付金を活用し基本設計、実施設計、補償を完。
達成した（出来なかった）理由	事業計画に見直しを要しており、計画期間中の完成が困難となった。
計画終了後の状況及び事業効果	未完成の為効果なし
事業の今後について	当該事業は令和4年度で終了

③. 優良建築物等整備事業（立町一丁目5番地区（A1地区））（民間事業者）

事業実施期間	平成30年度～令和4年度【済】 [認定基本計画：平成30年度～令和3年度]
事業概要	空き地の解消を図り、土地の合理的な高度利用による市街地環境の改善等に寄与することを目的に、商業施設や賃貸住宅、温浴施設等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	復興交付金（優良建築物等整備事業・基幹事業） （国土交通省）（令和2年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	[事業目標値] 4戸（賃貸住宅整備予定） [最新値] 0戸（目標未達成） 復興交付金を活用し基本設計、実施設計を完了
達成した（出来なかった）理由	事業計画に見直しを要しており、計画期間中の完成が困難となった。
計画終了後の状況及び事業効果	未完成の為効果なし
事業の今後について	当該事業は令和4年度で終了

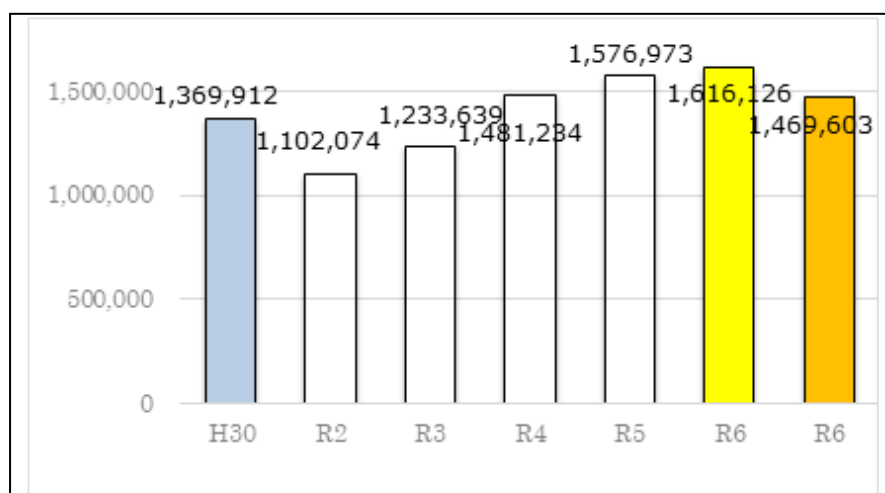
●今後の対策

優良建築物等整備事業の資金計画等の事業計画に見直しにより、計画期間中の実施が困難となった点が目標未達成の大きな要因であるが、全国的な人口減少や少子高齢化が顕著な中、当面新たな住宅需要及び供給の予定がないことから、次期計画において目標指標には設定せず、状況を注視していく。

(3)「2施設の利用者数(人/年)(目標の達成状況【A】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P70～P72 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H30	1,369,912 (基準年値)
R2	1,102,074
R3	1,233,639
R4	1,481,234
R5	1,576,973
R6	1,616,126
R6	1,469,603 (目標値)

※調査方法: 施設の利用者数の集計

※調査月: 毎年度3月末

※調査主体: 石巻市(石ノ森萬画館、いしのまき元気いちば)

※調査対象: 石ノ森萬画館入場者数、いしのまき元気いちば利用者数

〈分析内容〉

「2施設の利用者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度までは影響を受けた数字となっていたが、令和4年度以降経済活動の正常化から、回復が図られ、令和5年度には目標値を超える利用者数となった。石ノ森萬画館については、新型コロナウイルス感染症の影響による休館に加え、設備の不具合による臨時休館等もあり目標値までに至らなかったものの、いしのまき元気いちばについては、イベントの開催やメディアでの広報により、多くの利用者が訪れる施設となった。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 石ノ森萬画館実施事業(石巻市)

事業実施期間	平成13年度～【実施中】
事業概要	石ノ森萬画館にて、「マンガの街いしのまき」を体感してもらうきっかけづくりとして各種事業を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省) (令和2年度～令和6年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 218,917人 【最新値】 173,106人(目標未達成) 新型コロナウイルス感染症流行前の入込数水準までは回復していないが、中心市街地の周遊を促進するイベントも開催し、一部外部アドバイザー等の助言も受けながら、入込数の回復に努めている。

達成した（出来なかった）理由	年度によってコロナ禍の影響による来館者数の落ち込みや館内空調の改修に伴う臨時休館などがあり、結果として計画策定時に想定した来館者数の伸びを下回り目標未達成となった。
計画終了後の状況及び事業効果	全国巡回ではない石ノ森萬画館独自の企画展や中心市街地の周遊を促すイベントの開催により、令和4年度からは毎年2万人程度ずつ入込数が増加している。目標値としては上記理由により未達成であるものの、一定の効果をもたらした。
事業の今後について	現在、入込数が増加傾向にあるため、更なる増加を目指し、街なかの事業者と適宜連携しながら、引き続きイベント内容等を工夫し、中心市街地の賑わいをもたらすよう努めていく。

②. いしのまき元気いちば運営・石巻食発信事業（民間事業者）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	本市の中心市街地の拠点エリアに立地する商業施設「いしのまき元気いちば」を運営し、「食のエンターテインメント」をコンセプトに、石巻地域の地場産品を紹介し、それらを用いたイベントなど消費者が楽しめ、面白いと感じられるような企画を実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 来場者数：1,250,686人 【最新値】 来場者数：1,443,020人 「いしのまき元気いちば」内にて、石巻市内の加工業者の商品を中心に試食や商品PRをしながら販売し、2階食堂では、石巻の特色を活かした料理を提供する事で、観光客のみならず地域住民の方々にも多く利用いただいた。 また、隣接する防波堤やかわまち広場等で開催されるイベントとの相乗効果もあり、多くの方々が集まるエリアとなった。
達成した（出来なかった）理由	地域の特色に特化し、市民や観光客をターゲットとした商品や食事を取りそろえる事により、多くの方々に来店いただいた。また川沿いエリアでのイベントとの相乗効果もあり集客につながった。
計画終了後の状況及び事業効果	地域内では多くの方が集まる場所となり、この5年間で市民や観光客にも必要とされる場所になった。また、この場所でたくさんの石巻の食材がTV等で取り上げられるなどのPR効果もあった。
事業の今後について	かわまち交流拠点施設整備事業が完了し、供用開始となったことに伴い、多くのイベントが開催されることで、集まった方々が石巻の川沿いエリアを堪能しながら食材を「見る、食べる」ことができるような機会を更に増やし、「いしのまき元気いちば」を含めた川沿いエリアから街中への人の流れを創出していく。

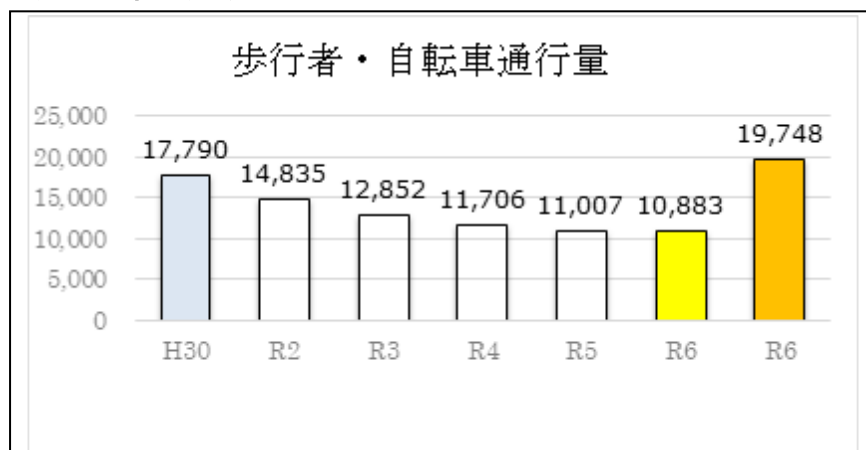
●今後の対策

「2施設の利用者数」については新型コロナウイルス感染症の影響があった令和2年度以降、社会経済活動の再開に伴う回復や施設が実施するイベントでの利用者数増加により、目標値を上回る結果となった。また、この2施設は川沿いエリアに隣接しており、このエリアにおける賑わいを街なかへ波及させることが中心市街地の賑わいに寄与すると考えられることから、次期計画では各目標の達成に向けた管理のための参考指標として数値を捉えていき、施設においては川沿いエリア内でのイベントとの相乗効果があるようなイベントの実施を行うことで、利用者数の更なる増加を図っていきたい。

（４）「歩行者・自転車通行量」（目標の達成状況【C】）

※目標値設定の考え方認定基本計画 P73～P76 参照

●調査結果と分析



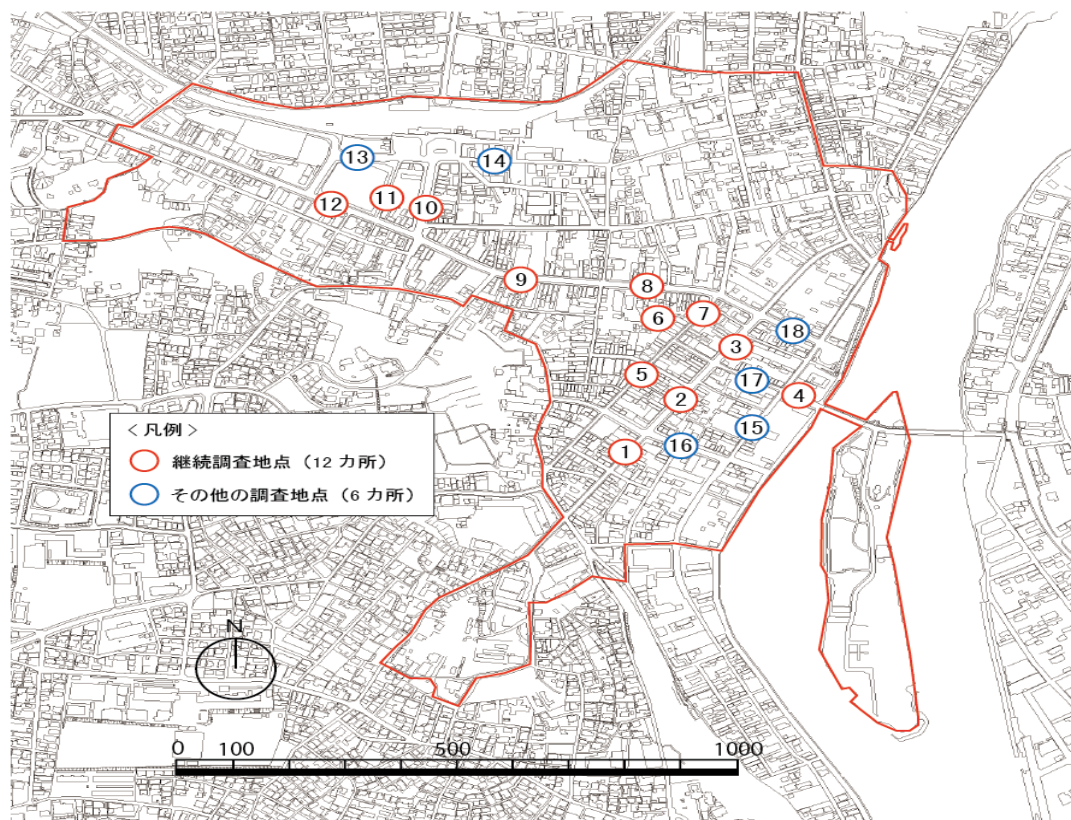
年	(人)
H30	17,790 (基準年値)
R2	14,835
R3	12,852
R4	11,706
R5	11,007
R6	10,883
R6	19,748 (目標値)

※調査方法：石巻市中心市街地通行量調査

※調査月：平成30年10月、令和2年10月、令和3年10月、令和4年10月、令和5年10月/11月、令和6年10月

※調査主体：石巻市

※調査対象：平日・休日の中心市街地内12地点(①中央一大通り、②アイトピア大町、③アイトピア中央銀座、④橋通り、⑤寿町みなみどおり、⑥ことぶき町ポケットパーク、⑦ことぶき町、⑧立町大通り東側、⑨立町大通り西側、⑩駅前大通り、⑪市役所おまさか通り、⑫穀町大通り)における歩行者と自転車通行量の合算値。



(単位：人)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
地点①	666	804	816	728	504	660
地点②	942	1,058	654	778	534	714
地点③	1,431	1,235	912	993	987	932
地点④	1,638	1,725	1,621	387	497	619
地点⑤	760	678	606	794	884	724
地点⑥	602	556	402	352	412	458
地点⑦	1,264	1,182	754	658	721	549
地点⑧	1,894	1,997	1,676	1,894	1,682	1,659
地点⑨	2,071	2,246	1,669	1,838	1,883	1,717
地点⑩	2,031	1,493	1,172	1,349	1,390	1,257
地点⑪	1,004	420	828	710	338	276
地点⑫	1,476	1,441	1,742	1,225	1,175	1,318
合計	15,779	14,835	12,852	11,706	11,007	10,883

〈分析内容〉

「歩行者・自転車通行量」について、平日・休日合せた 12 地点の合計で、毎年減少しており、基準年値を下回る結果となった。要因として、イベント開催日以外での日常使いに活用されていないことや、復興事業により整備された地点において人の流れが変化したことにより、現在の計測地点では正確な通行量の増加が把握できないことが考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 石ノ森萬画館実施事業（石巻市）

事業実施期間	平成 13 年度～【実施中】
事業概要	石ノ森萬画館にて、「マンガの街いしのまき」を体感してもらうきっかけづくりとして各種事業を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和 2 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕 261 人の増加 〔最新値〕 推定 4,515 人の増加 新型コロナウイルス感染症拡大後の観光客の動態を注視しつつ中心市街地の周遊を促す企画を実施しており、中心市街地の様々な施設・店舗と連携しながら街歩き促進に努めている。
達成した（出来なかった）理由	令和 5 年度に県が実施したアンケートより、来館者の 12.4% が徒歩または自転車で中心市街地を回遊したと推定される。令和元年度設定の目標値 16,950 人に対し、本年度は 21,465 人の推定値となったため、推定 4,515 人が増加したものと考え目標達成とした。
計画終了後の状況及び事業効果	石ノ森萬画館や石巻マンガロードを周遊するイベントのほか、いしのまき元気いちば周辺で開催される川沿い・堤防を利活用したイベントと連携し、街歩きによる賑わい増加に寄与したと想定される。
事業の今後について	石ノ森萬画館やいしのまき元気いちば周辺で行われるイベントへの参加者、網地島ライン（フェリー）乗船客など中心市街地を通行する方の回遊を引き続き促すとともに、街歩きを促進する地方創生ゲームアプリも活用しながら、中心市街地に感染症拡大前の賑わいを取り戻すよう努めていく。

②. かわまちエリアマネジメント事業（民間事業者・石巻市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	都市再生推進法人の指定を受けた民間事業者が、関係事業者とともに堤防一体空間を始めとしたかわまちエリアの管理体制を構築し、日常的な賑わいと憩いの場としての活用を図る。
国の支援措置名及び支援期間	民間まちづくり活動促進・普及啓発事業（国土交通省） 【実施時期】 令和 3 年度 〔認定基本計画：民間まちづくり活動促進、普及啓発事業（国土交通省）（令和 2 年度～令和 6 年度）〕
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕 中心市街地歩行者通行量 19,748 人（令和 6 年度） 〔最新値〕 中心市街地歩行者通行量 10,883 人（令和 6 年度） 旧北上川堤防一体空間において、令和 6 年 4 月から令和 7 年 3 月まで計 12 回のイベントが開催され、およそ 7,100 人の方が訪れた。

達成した（出来なかった）理由	堤防一体空間などの公共空間における市民のイベント利用は春から秋の週末にかけて多く見られるようになり、イベントシーズンを捉えていることが川沿いエリアの賑わいの創出に一定程度寄与しているものと考えられる。しかしながら、中心市街地全体の空き店舗や空き地の増加により全体の賑わいにつながっていないこと、イベント等が行われない平日や休日に集客するコンテンツに欠けていることなどから、通行量の減少につながったと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	年間を通して市民の参画を得て多様なイベントが開催されたほか、キッチンカーによる出店による賑わい創出が図られたが、堤防一体空間周辺の休日の通行量は昨年度に比べ減少し、中心市街地における通行量も減少した。 一方で1月には、街づくりまんぼうにより堤防一体空間にコンテナを用いたカフェが整備されたほか、3月にはマンガキャラクターによるモニュメントが設置され、イベント等が開催されない日においても訪れることができるような仕掛けによって、イベント等が開催されない日もカフェに訪れる人や写真撮影に訪れる人が見られるようになっている。
事業の今後について	堤防一体空間の管理運営を、令和7年4月より「石巻まちなかエリアプラットフォーム（令和7年1月設立）」によって行う。エリアプラットフォームは、都市再生推進法人である街づくりまんぼうのほか、石巻市、石巻商工会議所、商店街、まちづくり団体等が参画しており、堤防一体空間の管理にあたっては、堤防に隣接するいしのまき元気いちばと石巻観光協会、街づくりまんぼうが中心となって行うこととしている。これにより、堤防一体空間などで行われる市民企画によるイベントや、隣接する商業・公共施設でのイベント情報等について一体的かつ広域的に発信することで、さらなる川沿いエリアへの集客と持続的な運営体制へとつなげる。

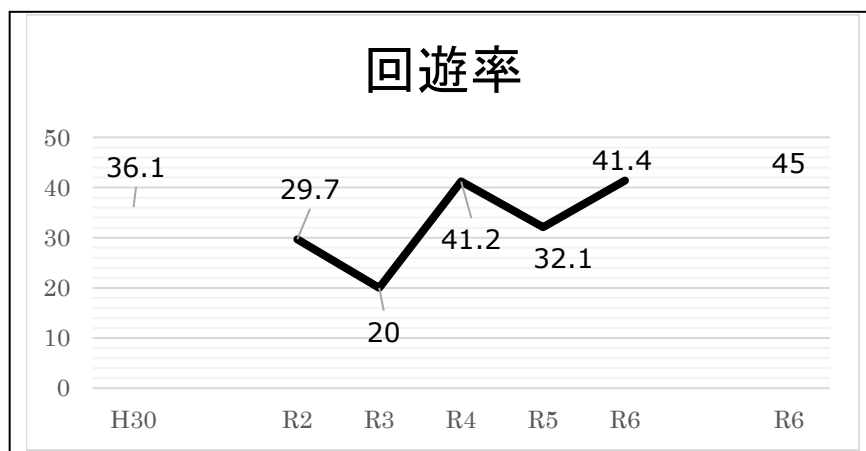
●今後の対策

街なかへの来訪者の減少や人口減少に伴い、いずれの地点も通行量は減少傾向にあるが、復興事業で整備されたかわまちエリアには多くの来訪者がある。今期計画までに行っていた調査地点は復興事業に伴う人流の移り変わりや、新たに整備された施設への通行量の増加が正確に反映されない地点となっていることから、次期計画においては調査地点を増加することで各地点の人流を捉え中心市街地全体へ波及させるよう検証する。

（５）「【参考指標】中心市街地回遊率（％）」（目標の達成状況【B2】）

※目標値設定の考え方認定基本計画 P77 参照

●調査結果と分析



年	(%)
H30	36.1 (基準年値)
R2	29.7
R3	20.0
R4	41.2
R5	32.1
R6	41.4
R6	45.0 (目標値)

※調査方法： アンケート調査

※調 査 月： 毎年8月頃

※調査主体： 東北学院大学 建築デザイン研究室

※調査対象： 川沿いエリア(元気いちば前)に来訪した市民・観光客

〈分析内容〉

「中心市街地回遊率」について、目標値には及ばなかったものの、令和5年度を大きく上回り、基準年値よりも回遊率は向上している。これは中心地市街地を訪れる市民や観光客にとって、回遊するきっかけとなるような情報発信を積極的に行ったことや、目的地となるような店舗の出店が推進されたことに伴い前年度よりも回遊性の向上に繋がったと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 石巻マンガロード整備活用事業（石巻市・民間事業者）

事業実施期間	平成13年度～【実施中】
事業概要	石巻駅前、石ノ森萬画館、市役所等の中核施設を結ぶ商店街通りを「石巻マンガロード」として位置づけモニュメント等を整備してきた。今後も中心市街地の魅力創出のためマンガモニュメントの追加設置やウェブサイトの運用を中心とした情報発信を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕－ 石巻マンガロード（マンガモニュメント）の魅力を発信するため、ハード事業やソフト事業を実施し、マンガロードを周遊してもらうことで、中心市街地の賑わいに寄与する。 魅力発信のため行っている、「石巻マンガロードウェブサイト」の管理運営については、掲載内容の積極的な更新等によ

	り令和6年度には23万ページビューとなり過去5年間で最高となった。また、ハード面の整備では、マンガキャラクターのモニュメントが固定されたベンチとしてベンチアート3基を設置したほか、中心市街地での情報発信をわかりやすく見ることができるデジタルサイネージを2か所に設置した。
達成した（出来なかった）理由	ウェブサイト掲載記事の定期的な更新や大型連休、イベントシーズンにおける情報発信によるアクセス数の増加が大きな要因と考えられる。また、SNSを活用することで多くのリアルタイムの情報を届けられるようになったことで、ウェブサイトへの相互的なアクセスも向上されたと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地の情報を発信しているウェブサイトは、掲載記事に街なかへのアクセス手法やイベント情報などを掲載していることで多くの人がアクセスをし、わかりやすい内容となっている。また、新設したベンチアートを含むモニュメントはそれを目的として訪れる人が増加することで、回遊性の向上につながると考えられる。
事業の今後について	ウェブサイトにおける情報発信は引き続き積極的な内容の更新を行うことで、多くの人に目にしてもらう機会を作るとともに、JR石巻駅から石ノ森萬画館まで続く石巻マンガロードに新たにベンチアートを設置、既存モニュメントのメンテナンス等を行うことによって、街なかを歩く楽しさや石ノ森萬画館との相乗効果を図り中心市街地の賑わいと回遊性を高めていく。

②. 街なかイベント開催助成金（石巻市）

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	中心市街地における活発なイベントの開催を支援し交流人口の拡大を図るため、石巻市中心市街地活性化協議会が実施している「賑わい創出補助金」に対して助成を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和3年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕－ 中心市街地で開催されたイベントに対し、補助金を交付することで、中心市街地の賑わいに寄与する。 令和6年度は、中心市街地で開催された10件のイベントに対し1,448,000円の助成を行った。
達成した（出来なかった）理由	イベントに対する補助金は制度開始後の、令和3年度は3件だったものが、令和6年度には9件と増加してきており、制度が認知されてきていることにより、利用者が増加していると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地内でのイベント開催が促されることで、街なかに訪れる人が増え、賑わいの創出に繋がったと考えられる。

事業の今後について	第4期計画においても同様に助成事業を行うこととしており、助成対象事業に「文化・芸術活動」を追加し、補助事業を行うことで、さらに多くのイベントの実施を促し、賑わいの創出に繋げた。
③. 石巻マンガロード新名物創出事業（石巻市）	
事業実施期間	令和3年度～令和6年度【済】 〔認定基本計画：令和3年度～〕
事業概要	街なかの店舗一軒一軒に、石巻マンガロードの新たな名物になるような石ノ森作品にちなんだ商品が生まれることを目標に、商品開発費、キャラクター利用の著作権費、広報宣伝費等を助成。また、実施事業者の発掘や著作権に係る交渉などの商品開発に係るサポート業務を実施。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和3年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕－ 石巻へ訪れお土産を購入していただくだけでなく、SNSによる情報発信等により、魅力発信及び認知度を図ることができる。 令和6年度は2件の石巻マンガロード新名物を創出した。
達成した（出来なかった）理由	事業開始後、新名物創出に向け、企画の作成や事業者からの相談などを行ったものの、著作権の関係上商品化が困難なケースがあり、4年間の実績は伸び悩んだ。
計画終了後の状況及び事業効果	創出された新名物は現在も各店舗において販売されており、「萬画のまち・石巻」の発信に繋がっている。
事業の今後について	近年の知的財産権の管理厳格化に伴い、マンガキャラクターを活用した商品開発が困難となっており、4年間の実績も伸び悩んでいることから、令和6年度で事業を終了する。
④. 街なか集客販促イベント共同化事業（民間事業者）	
事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	中心市街地への集客と販促につなげるため、商店、飲食店、まちづくり会社等が連携し、イベント等を企画、実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕－ 令和6年10月26日に、中心市街地内の空き地を活用して商店街有志と街づくりまんぼう等まちづくり団体が中心となり「いしのまきまちなかパン博覧会（通称：パンパク）」を開催した。石巻市子どもセンターらいつによるハロウィン祭りと同日開催とすることで、中心市街地全体の回遊性向上と賑わい創出につなげることができた。
達成した（出来なかった）理由	空き地を活用したイベントにより実施当日は多くの人々が中心市街地を訪れ回遊が見られたが、これらのことが空き地や空き店舗の本設活用には至らず、イベントが開催されない日の

	中心市街地の集客や販促につなげることができなかったため。
計画終了後の状況及び事業効果	商店街店舗の減少により、依然として商店街組織が中心となって集客・販促イベントを企画実施していくことが困難な状況にある。そのような中、商店街有志やまちづくり関係団体によって空き地や公共空間を活用した集客イベントが開催されるようになってきている。
事業の今後について	令和7年度も「パンパク」を開催する予定で、商店街有志や街づくりまんぼうによって検討が行われている。令和7年1月に設立された「石巻まちなかエリアプラットフォーム」によって、イベントの周知や、商店街有志を中心としたさらなる空き地・空き店舗の活用等につなげていく予定である。

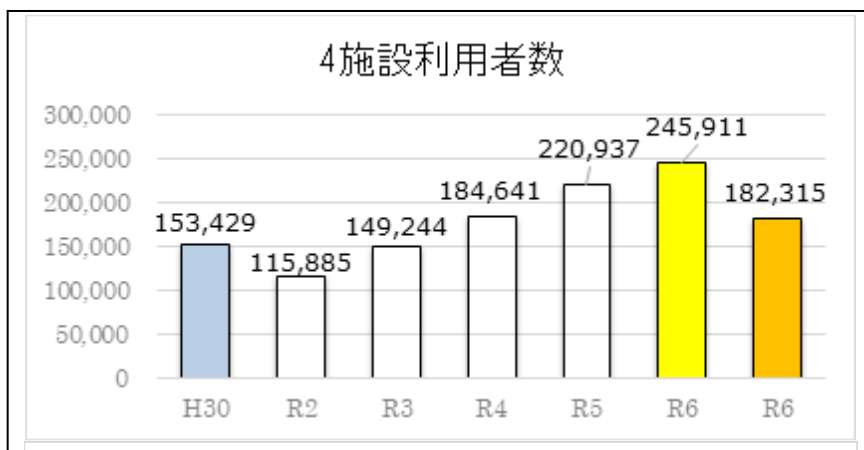
●今後の対策

震災後完成した「石巻市かわまち交流センター」や「いしのまき元気いちば」を中心とする「川沿いエリア」への来訪者は増加しているから、この賑わいを中心市街地全体へ波及させられるよう、第4期計画においても引き続きイベント開催に係る補助金事業を助成するとともに、居心地の良い歩きたくなる空間づくりを進めることを中心として、遊休不動産の活用を行い、目的地を増やしていく。

（６）「市民交流施設４施設の利用者数（人/年）」（目標の達成状況【Ａ】）

※目標値設定の考え方認定基本計画 P78～P79 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H30	153,429 (基準年値)
R2	115,885
R3	149,244
R4	184,641
R5	220,937
R6	245,911
R6	182,315 (目標値)

※調査方法：施設の利用者数の集計

※調査月：毎年度3月末

※調査主体：石巻市

※調査対象：あいプラザ・石巻、旧観慶丸商店、かわまち交流センター、アイトピア
ホールの利用者数

〈分析内容〉

「市民交流施設4施設の利用者数」について、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく影響を受けた令和2年以降増加傾向にあり、令和4年度には目標値を上回る結果となった。「かわまち交流拠点センター」では施設周辺のイベント実施に伴う利用や貸館の利用が増加しており、また「あいプラザ・石巻」では施設利用者の利便性向上の為、施設利用方法の変更を行った結果大幅な利用者増加に繋がった。「アイトピアホール」では令和5年度と比較し利用者の減少となっており、貸しスペースとしての認識が不足していると考えられる。また、「旧観慶丸商店」については令和6年度に施設修繕に伴う休館があったことで利用者の減少となった。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 石巻市かわまち交流拠点施設管理運営事業（石巻市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	石巻市かわまち交流センター、石巻市かわまち立体駐車場・かわまちバス駐車場、石巻市かわまち交通広場を指定管理により運営し、観光ハブ機能を有し、市民や観光客が気軽に利用できるスペースとして、サロン・ミーティングスペース・キッチン等の利用開放や、観光情報案内、イベントの開催等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕 石巻市かわまち交流センター利用者数：63,618人 〔最新値〕 石巻市かわまち交流センター利用者数：148,399人 （目標達成） 観光情報の発信のほか、広場等を活用したイベントの開催や貸館事業も多く利用されたことで、かわまち交流センターの施設利用者は毎年増加となっている。
達成した（出来なかった）理由	かわまち交流広場でのイベント実施により、イベント参加者の利用が進んだほか、かわまち交流センターの貸館が浸透し利用者数が目標を大きく上回る結果となった。
計画終了後の状況及び事業効果	川沿いエリアの拠点となる観光交流施設として、市内エリアの観光スポットを有機的に繋ぎ、観光客の利用が増加しているほか、市民の交流スペースとしての日常使いとしても利用されることで、賑わいの創出に繋がっている。
事業の今後について	利用者数は増加傾向となっており、施設の貸館回数については受入れ可能な最大値に近い回数となっている。今後も、市内エリアの観光スポットを繋ぐハブ機能を有した観光情報発信拠点として、積極的に情報発信を行い、観光客の利用を進めていくとともに、市民が日常的に集える場としての提供を続けていく。

②. 石巻健康センター あいプラザ・石巻活用事業（石巻市）

事業実施期間	平成 21 年度～【実施中】
事業概要	健康・福祉の拠点施設として各種講座の展開や、プールやジム等の施設提供を行うことで、地域住民の健康づくりを推進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕 96, 189人 〔最新値〕 84, 920人（目標未達成） 新たな指定管理期間の初年度として、会員制の導入と各種講座等の実施を行い、84, 920人の利用があった。
達成した（出来なかった）理由	令和6年度より指定管理期間が新たに開始されたことで、従来の利用方法に加え、月額会員制度を実施し、利用者の利便向上に繋げた。また、利用者のニーズに沿った講座を開設することで施設利用者数の増加に繋がった。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地内の健康増進施設として、施設には多くの利用者が集まることとなり、目標値を上回る結果となった。
事業の今後について	利用者数は、コロナ禍における大幅な減少があったが、5類移行後の利用者回復に向けた取組などにより回復基調にはあるものの、コロナ禍前の水準までは至っていないことから、今後も施設における事業実施計画に基づく取組を進め回復を図るとともに、地域住民の健康づくりを推進する。

③. まちなかコミュニティホール活用事業（民間事業者）

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	旧みやぎ生協アイトピア店を改修し、みやぎ生協と街づくりまんぼう等の連携のもと、各種イベントや講演会、勉強会等を開催し、市民が集えるまちなかのホールとして活用する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕 10, 794人 〔最新値〕 4, 483人（目標未達成） 市民が集えるまちなかのホール（アイトピアホール）として、市民団体を中心に4, 483人の利用があった。
達成した（出来なかった）理由	運営主体である生協による自主企画のほか、市民団体や地元企業による利用が見られたこと、収容人数の大きさの割に安価な利用料やセミナー等に必要な設備機器が借りられることなどが要因となり、新型コロナウイルス感染症流行時と比べ増加したものの、目標値には届かなかった。

計画終了後の状況及び事業効果	みやぎ生協による自主企画のほか、みやぎ生協と街づくりまんぼうの連携により引き続き貸しスペースとしての運営を行っていく。市民サロンのような企画やまちづくりに関する勉強会等で活用され、市民が集える場として機能している。
事業の今後について	貸しスペースとしての運営と並行して、アイトピアホールを含む中心市街地内で市民がイベントや集会等に利用できる公共スペースについて、一元的に情報を発信するなどして、より市民が利用しやすい環境を整備していく。

④. 旧観慶丸商店保存活用事業（石巻市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	市指定文化財である歴史的建造物の保存を図りつつ、中心市街地における歴史・芸術・文化発信拠点として、拠点となる施設の運営及びイベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕 11,714人 〔最新値〕 8,109人（目標未達成） 令和6年度 ・貸館利用団体数 37件 ・利用延べ日数 62日 ・開館日数 308日
達成した（出来なかった）理由	令和6年度の実績（年間入館者数）が、事業目標値を大きく下回った理由としては、令和6年2月から7月末まで施設の雨漏り修繕工事を実施した影響と思われる。
計画終了後の状況及び事業効果	施設そのものの認知度は上がってきていると思われるが、1階部分が貸館利用スペースとなっていることが、まだまだ周知されていないことと、博物館のサテライト的役割を持つ2階部分において、無料の企画展等を実施しているが集客に繋がっていないのが現状である。
事業の今後について	指定管理者と協力しながら、集客のためのさらなる創意工夫が必要。

⑤. 街なか文化・芸術活動活性化助成金（石巻市）

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【済】 〔認定基本計画：令和3年度～〕
事業概要	中心市街地において、文化活動や芸術活動を行う団体に対し、活動費用の助成を行うことにより、中心市街地の文化や芸術活動の拠点としての機能強化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	〔事業目標値〕－ 中心市街地において、文化活動や芸術活動を行う団体に対し、

	活動費用の助成を行なうことにより、市民活動参加者数の増加に繋がる。 令和6年度申請団体：10団体 助成額：945,000円
達成した（出来なかった）理由	令和3年10月から助成を実施したが、本助成金と類似した制度があることや、周知不足等で、令和4年度は8団体に対し、799,000円の助成、令和5年度は11団体に対し1,061,000円の助成となった。
計画終了後の状況及び事業効果	令和6年度はこれまでの利用者の口コミなどにより、活用する団体が増加したことから10団体への交付となり、文化芸術活動に取り組む団体の支援となった。
事業の今後について	第4期計画においては、類似していた制度と助成事業の統合をすることで、文化活動や芸術活動を行う団体が活動しやすい環境を作り、中心市街地の活性化に繋げていく。

●今後の対策

施設利用における目標値を達成しているものの、イベント実施に伴う要因が大きく、市民の日常使いでの利用はまだ伸びしろがある状況である。各施設の利用周知を引続き図ることで、イベントのみならず、市民が中心となった日常使いの場として多世代が安心して集える空間づくりを進めていく。